

中央大学 会計人会 会報

発行所 中央大学会計人会

〒116-0003 東京都荒川区南千住5-25-14

税理士法人 荻野会計事務所内

発行人 会長 荻野弘康



問われる企業の社会的責任 — オリンパス、大王製紙事件に思う —

会長 荻野弘康 (昭和34年卒)

***はじめに

会社経営を巡る事件は、しばしば起こり残念ながら後を絶たない。ライブドア〔ホリエモン〕に象徴される粉飾決算に起因するペーパー増資事件は、当人の実刑判決により落着きに向いつつあるが、またまた事件が発生している。

オリンパスの投資有価証券の長年にわたる巨額な粉飾決算〔有価証券評価損〕— 有価証券証券報告書の虚偽記載等で7人逮捕 — 大王製紙代表取締役のラスベガスの会社の運転資金流用の巨額ギャンブル事件— 同—である。

いずれも、メディアで詳細に報道されているので詳述は避けるが、株主、債権者、多くの庶民の怒り、批判を溶びるとともに、公開会社のコンプライアンスについても多大な信用失墜を招いたのは遺憾の極みである。

***会社経営の基本理念の欠落

経営者が会社経営において、会社の発展に努め、経営成績を向上させ、業界の上位、シェアの拡大を目指すのは、当然の責務である。

しかしながら、忘れてはならないのは、会社は、まして公開会社は経営者個人や経営者一族のだけの利益〔権力〕の拡大、追求のためにあるの

ではないということを肝に銘じなければならないのである。

今時の事件は、会社の経営者、経営状況や決算書を信頼して投資している多くの株主、債権者に対する不法行為であるばかりでなく、会社のためにまじめに働いている両社の多くの社員に対する背信行為でもある。

***会社経営をマネーゲームしてはならない

資本主義社会は、資本〔マネー〕が経営資本として活動し、経営の重要部分を占めていることは論を待たない。世界の株式市場に於いても、中東のオイルマネーの動向が市場に大きな影響を及ぼしていることは周知の通りである。

もともと資本主義社会にはマルクスの指摘する如く、生産の無政府性〔消費量を超える過剰生産〕という制度的欠陥があり、所用の期間に所要の生産調整のための近年では大きな経済混乱が生じているのである。

資本主義、社会主義、共産主義等いろいろな経済構造があるが、主人公はマネーでなく、人間(社員、就労者)でなければならないのである。

***商業と道徳は共存しなければならない

近年、世界的な経営学者であるピーター・F.

ドラッカーの「経済至上主義は人を幸せにしない」という至言があるが、正に当を得ている。

ドラッカーが高く評価しているのが、江戸時代の末期から明治初期にかけて日本初の株式会社制度を導入した静岡商法会所設立し、500余の民間企業を育成した渋沢栄一の「論語とソロバン — 道徳と経済利益」を基軸とする企業経営に関する基本理念である。

渋沢栄一は、論語の研究者としても著名であり「論語と算盤」、[青洲講義]など多くの著実を残している。

「利によりて行えば怨み多し」 — 論語 — などしばしば引用している。

*** 質実剛健と家族的情味は会社経営の

基本理念〔社是、社訓〕として活用できる

本学の伝統である「質実剛健と家族的情味」は、会社経営にとっても大切な基本理念として

- ・・・質実剛健〔飾り気がなくまじめで、たくましく、しっかりしている、こと〕
- ・・・家族的情味〔ハート型の会社経営、当然、憲法25-28条を含む〕

*** 本会報編集集中にA I J 事件が発生した。どこまで続くぬかるみぞ、だね。

も活用出来る素晴らしい旗印である。

経営の基本理念が無い会社、基本理念を持たない経営者は、多くの善良な社員、株主、債権者等に許容し難い迷惑、被害を与える可能性があり、経営者失格であり、直ちに退陣すべきである。

*** むすび

士業〔サムライ〕も、今時の事件では、厳しい批判にさらされると思われる。

株主の集団訴訟等定かでないが、オリンパスでは〔監査法人－公認会計士〕、大王製紙では〔税理士、弁護士〕の業務が問われることとなる。

士業創設の原点に返って、国民の負託に応えるよう税務会計の法理に則り誠心誠意、業務に精励しなければならないと思うのである。



六十の手習い

副会長 徳重寛之

題は何でもいいから会計人会の会報に原稿をお願いしますと荻野会長から言われ、二つ返事で引き受けてしまって後悔している。今日まで書いてきた原稿は、税制、税理士制度等専門分野の原稿がほとんどで、何でもいいですとは初めてである。文章力のある人ならばさっと短時間で書き上げてしまうであろうが、文才のない私にとってはまずなにを書こうかで迷ってしまった。私の好きな歴史の話でも書こうか、考古学の話でも迷っ

た末に学者でもない私が、歴史、考古でもあるまいと、近年はじめたフライ・フィッシングについて臆面もなく書くことにした。

還暦が近くなって60の手習いでフライ・フィッシングを始めた動機は、後に師匠となるT氏に岩魚の写真を酒席で見せられ綺麗な魚だなと感じた事がキッカケである。ちなみにT氏は、海外に遠征して釣りを楽しむほどのベテランである。一方、私は釣りに関しては、全くの素人、今振り返

ればよくフライをやるといったものだと冷や汗ものである。酒の勢いもあって、早速釣りに行こうと話しがまとまり後日、場所は伊豆の狩野川であったと記憶しているが生まれて始めてフライ・フィッシングに挑戦したと言いたいが、道具と川にもてあそばれ釣りどころではなかった。ただ、川のせせらぎ、風の音、流れの感触が身体に染み渡って心地良く感じた。この感じが忘れられなくて釣りを続けているのかもしれない。

フライ・フィッシングとは、虫や小魚に似せたフライで魚を釣る方法である。この起源は、古く紀元前200年の古代マケドニア人が始めたと言われている。ただ現代の釣り方は、15世紀後半にフライ・パターンがイギリスで考案され、それが改良され現在に至っている。日本では、17世紀末の書物に蠅頭、蚊針と言う和式毛針が登場する別名テンカラ釣りと呼ばれ、各地域で独自の発展をしてきている。しかし、釣り方の基本的理念の違いと、疑似餌のパターンの相違等からフライ・フィッシングとは、厳格に区別されているようである。釣りの世界も奥が、深いのである。

欧米では、フライ・フィッシングのことをクワイエット・スポーツ（静かなるスポーツ）と呼んでいる。実際に溪流釣行を行うとその意味が分かるような気がする。山女、岩魚、アマゴが溪流釣りのターゲットであるがいずれも清流に棲む魚で非常に臆病な性格である。少しの音、僅かな影にも反応する、まして清流で水は、透明度が高く透きとおっている。

岩の間を流れ下る水の音と時折、風にそよぐ樹木のざわめきのなかにぽつんと釣り人がいる。虚空一閃ピューと空気を切り裂いてラインが飛ぶ、後は寂。川面をフライが、流れる木々の葉に混じって移動する、一瞬流れが銀色に盛り上

がりフライが消滅する。ラインを引きながらロッドをたてるロッドがしなやかに頷く。フィッシュ・オン、ラインがあらぬ方向に鋭く走る釣り人は、ただひたすらロッドをたて、魚の動きと駆け引きしながら慎重に魚を取り込んでいく。バシヤ魚が、最後の抵抗で水面を跳ねる、静かにランディングネットに収める。魚に負担を掛けないよう注意しながら針を外し、リリースするファイトしてくれたことに感謝をしながら。この様に記述すると簡単にファイトができる様に思えるがベテランと言われる人でも溪流釣りに関しては、半日で片手位しかチャンスがないのではないかと思う。ましてネットに納めるにいたってはもっと確率が低くなる。初心者の私に至ってはファイトチャンスが1回あればいいほうである。川下から川上に黙々と歩きキャストイングを繰り返す。こうなると釣りと呼んで良いのかという心境である。私にとって正しくクワイエット・スポーツである。

近年全国の河川・湖でのリリース区域が広がっている。また、パーブレスフック（カエシのない針）の使用を義務づける地域も拡大している。出来るだけ魚にダメージを与えず二世、三世と自然に近い魚を育てるための試みである。この試みが、実を結び多くの人が、気楽に自然と調和しながらフライ・フィッシングを楽しむことが出来る日が待ち遠しい。釣りは、自然との調和と言うよりは釣り人が、人間であることを否定することから始まるのかもしれない。還暦近くになって始めた釣り、今後、何が釣れるか楽しみである。

この稿を終わるにあたって、師匠の天の声が聞こえた「フライ・フィッシングについて語るのは、十年早い」、本当にその通りです、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

役 員

会 長	萩 野 弘 康 (東京)		
副 会 長	大 江 晋 也 (東京)	小 池 正 明 (東京)	鈴 木 康 二 (東京)
	鈴 木 康 雄 (東京)	岩 田 克 夫 (東京)	石 亀 邦 俊 (東京)
	高 畑 公 一 (東京)	坂 田 純 一 (東京)	徳 重 寛 之 (東京)
	岩 本 一 志 (東京)	太 田 賢 治 (愛知)	小 林 健 彦 (栃木)
理 事	荒 木 慶 幸 (日本橋)	八木沢 秀 夫 (足立)	小 野 浩 道 (渋谷)
	一之瀬 由 明 (品川)	安 田 京 子 (日本橋)	大 藤 淑 子 (立川)
	大 野 哲 (板橋)	大 谷 義 幸 (大森)	宮 本 雄 司 (本所)
	松 本 憲 人 (神田)	平 川 茂 (神田)	佐久間 淳 (中野)
	杉 本 当 正 (八王子)	小 森 輝 於 (渋谷)	根 岸 克 巳 (荒川)
	富 田 光 彦 (渋谷)	木 村 正 二 (荒川)	塩 沢 靖 典 (中野)
	平 山 光 洋 (中野)	吉 田 英 一 (荏原)	若 宮 正 英 (王子)
	田 中 秀 行 (王子)		
	会 計 監 査	佐 藤 博 司 (荒川)	
	顧 問	富 岡 幸 雄 (名誉教授)	大 淵 博 義 (教授)
平 川 忠 雄 (神田)			
相 談 役	岡 崎 和 雄 (東京)	山 田 淳 一 郎 (東京)	
	金 子 圭 賢 (東京)	佐 藤 寛 (東京)	
	松 原 弘 明 (福岡)	朝 倉 文 彦 (神奈川)	岩 本 俊 雄 (熊本)

※役員の補充選任は交渉中です。

会 務 報 告

正副会長会－理事会

平成23年 9月 6日 17:00～19:00

議 題

- ①顧問就任について
- ②役員の新補充について
- ③事業活動の推進について
 - *副会長の担当について
 - *広報活動
 - *研修会
 - *組織活動
 - *その他

正副会長会－理事会

平成24年 2月13日

協 議 ・ 報 告 事 項

- ①会報12号の発行について
- ②観桜会〔4月2日〕について
- ③組織活動について
- ④懇親ゴルフ会の開催について
- ⑤旅費規程等について
- ⑥その他